



第113回ワーキンググループ会議 (R5.7.27)

「障害者や高齢者の自動車運転について —社会参加と安全の確保—」

●話題提供者

滋賀医科大学医学部 社会医学講座
教授/医師 一杉正仁さん



障害者や高齢者、女性の就労による社会参加が進んでいる

- ★自動車運転は、社会参加を行う上で重要であり、QOL 向上を目指すうえでも守られるべき権利
- ★安全な交通社会を守るうえで、適切な運転能力が必要

安全に自動車運転をするために…

- どんな病気でも、交通事故の原因になり得ると理解する
- 疾患のコントロールを良好に保つ
- 体調不良時には無理に運転を継続せず、中止する！
- 医師は、運転に支障のない薬剤を処方する

7月は、滋賀医科大学社会医学講座の一杉正仁教授から、障害者や高齢者の自動車運転について、《社会参加》という視点を加えて話題提供をしていただきました。

度々ニュースにもなる高齢者の免許返納ですが、各人の背景やその後の生活を考えると難しいことも多く、「わかっているけどそんな簡単には…」と躊躇する方もあるかと思います。

今回お話しいただいたような免許返納以外の選択肢があることを、もっとたくさんの人知ってもらうことが大切だと思いました。

脳卒中患者を対象にした調査では、退院前に車の運転について説明がなかったと回答する方も多く、支援がないことにより運転能力のある人が交通社会に復帰できていない場合がある。一方で、評価の機会がないことで、運転能力に乏しい人が交通社会に参加することもあり、安全な交通社会形成と個人の社会参加の両立の観点から支援が必要。

ドライビングシミュレーターを活用するメリットとして、運転能力を向上させるだけでなく、自らの運転能力を理解し、納得して免許を返納してもらえるということがある。

運転しない方への不利益をなくし、運転する方と同じように社会参加ができる地域を作るために、オール滋賀で取り組んでいくことが大事だ。



一杉 正仁さん

参加者の声

- 車は本人にとっては生活の一部でステータスである。都会に比べて、滋賀県では車がないと難しい地域があり、本人に返納を説得するのは難しい。ご家族の方が「認知症になったから車を辞めたら」と説明しても喧嘩になることもある。
- 田舎に住んでいる方の中には、「運転できる自分は現役だ」という精神的なアイデンティティになっている方もいる。また、身分証としての意義もあり、運転はしなくなっても身分証として持っていたい、という方もいる。
- 地域で運転免許を返納する人をどう支えるか。体調不良時にはタクシーを無料で乗れる、かかりつけの医師が家に看に来るなどのサポートが必要と考える。
- 実際に親が返納された方がいたが、意外と生活は変わらなかった。車の維持費を考えるとタクシーを積極的に活用することでOK。交通の便の良いところに引っ越し選択肢も活用すれば、返納後の生活も維持することができる。そういったことを周知することが大事。

- ドライビングシミュレーター (DS) の評価や訓練を初めて知った。今まで関わった方にも紹介できればよかった。運転免許の返納となれば社会資源の紹介をしていたが、納得してもらえないこともある。DSを使った評価をしてもらえると納得されると思うので、そういう機関が増えるとよい。
- DSがある施設が滋賀県内に数か所あるとのことだが、ケアマネや医療従事者が研修を受ける機会があれば、より良い支援ができるのでは。
- “こういう病気になったら運転はできない”という固定観念があったが、訓練をして能力をあげ運転ができるようになるという取り組みも大事と感じた。
- 運転には健康が大事。オーラルフレイル、生活習慣病も危険因子となるということが知られていないのであれば、周知や予防対策が必要と考える。
- 認知症や他の病気でも運転が危ないことがあって、だれに何を相談したらよいか分からないことがある。警察の交通課は思いつくが、他の部署も現場が知っているといいと感じた。

インスタフォトコン開催中！！



今年のテーマは
「#滋賀でイキイキ」
滋賀県で日々の暮らし
を楽しむ方の姿を大募集
しています！



【次回ワーキンググループ会議】

- 日時：令和5年9月28日(木) 18:30~20:00
- 場所：滋賀県庁新館7階大会議室 (Web可)
- テーマ：『外国人材の声 (仮題)』
- 話題提供者：一般社団法人滋賀県介護老人保健施設協会
滋賀県国際介護・福祉人材センター
東 宗樹さん、外国人材の方

<総会・研修会>

○日時：8月26日(土) 13時30分~16時30分(受付13時~)

○場所：コラボしが21 大会議室

○内容：

【取組報告】「ほんならDOで、ほっと安心地域づくり」

報告：あいとうふくしモール 副会長

／(特非)あいとう和楽 理事長 川副 きよ子 氏

【グループワーク】「みんなで孤立をなくせ！ 超高齢社会体験ゲーム

『コミュニティコーピング』

ファシリテーター：コミュニティコーピング認定ファシリテーター

／関西支部長 中土 翔太 氏 ほか

医療福祉の地域創造会議 事務局

(滋賀県庁 医療福祉推進課内)

Tel 077-528-3529

e-mail info@chiikisouzoukaigi-s higa.jp

